

生き生きと自己表現活動に取り組ませてみませんか

～話す活動の工夫を通して～

五十嵐 逸 郎

1 はじめに

生徒は、中学校に入学し、新しい教科として「英語」に出会います。

英語という言葉とその背景にある文化などへの興味・関心に満ちあふれ、「英語を話せるようになりたい、いろいろな国の人とコミュニケーションを図ってみたい。」などの夢や希望をもって目を輝かせて学習に取り組みます。しかし、学年が進むに従って、「むずかしい、めんどくさい。」などの理由から英語を学習することに抵抗を感じ、表現することに消極的になる傾向が見られます。

生徒は、自分の思いや考えを表現し、伝えることができた時に、英語で表現する喜びや楽しさを味わうことができます。そのような「生き生きと自己表現しながら、表現することの楽しさや喜びを味わうことができる授業」をつくってみませんか。

2 生き生きと自己表現活動に取り組ませるために

今回の実践では、発表形式の話す活動を工夫することで、自己表現力を向上させ、生き生きと自己表現活動に取り組ませたいと考えました。

そこで、以下のように、授業を構想しました。

1 表現意欲を喚起する活動の工夫

授業を構想するにあたって、まず、生徒たちの「おもしろそうだな、やってみたい。」という表現意欲を喚起する活動を工夫しようと考えました。

アメリカの小学校などでは、表現力の育成をねらいとして「Show and Tell」が実践されています。そのメリットを最大限に生かすことで、生徒の表現意欲を喚起し、主体的で創造的な言語活動が展開できると考えました。

Show and Tellとは

テーマとするものを実物や絵、写真などで提示し、それらを紹介する発表形式の表現活動

メリット

- 「紹介するもの」を提示することで
- 自分の伝えたいことを常に明確に意識できる。
- 自分が伝えようとするをまとめやすい。
- 聞き手も集中して発表を聞くことができる。

2 発表までの過程を大切に活動

よりよい発表をさせるためには、発表までの準備段階が大切であると思います。発表に至るまでの過程で、原稿を書いたり、発表の練習をしたりする活動を通して自己表現力が向上し、成就感や満足感を味わえる発表にすることができると考えました。

そこで、発表までの活動を重視し、その活動をスモールステップ化し、段階的に発表に結びつけていくことにしました。

上記のことを踏まえ、中学3年生を対象に、「My Treasure (私の宝物)」という発表テーマで、